

同窓会

の

# チカラ

同窓会のための情報誌

2022

紹介 ● 同窓会活動紹介

・世界で役立つ人材づくり：

公益財団法人 県立浦和高等学校同窓会奨学財団

・母校から繋いだ襷と北高魂！：

静岡県立浜松北高等学校同窓会・関東支部総会

・カレーが結ぶ学食支援の輪：大阪府立八尾高等学校同窓会  
リレー連載 ● 私と同窓会

・松本貞男（福島県立双葉高等学校同窓会・会長）

わが学び舎

・熊本県立済々黌高等学校済々黌同窓会

*Our Proud*

熊本県立済々黌高等学校・管理棟

2010年（平成22年）7月竣工 鉄筋コンクリート4階建

Vol. 14

# 世界で役立つ人材づくり

## 公益財団法人 県立浦和高等学校同窓会奨学財団

グローバル社会における真のリーダーの育成を目指し  
広き宇内に雄飛する若者を支援する

●令和三年で創立百二十六年を迎えた埼玉県立浦和高等学校（埼玉県さいたま市）は、全国有数の名門公立高校である。東大の合格者数で常に上位に立つ一方で、ラグビー部の全国大会出場など、文武両道の男子校でもある。この浦和高等学校同窓会では、平成二十五年六月、浦和高等学校（以下・浦高）の在学生及び卒業生を対象とした奨学金関係事業の財団を立ち上げ、同年十一月には公益財団法人に移行し活動を開始した。設立より九年、浦高および埼玉県内の高校の在校生・卒業生を対象に、これまでのべ二百八十九人への支援を実施している。こうした、他にあまり例を見ない「同窓会を活動の基盤とした奨学財団」設立について、その理念と経緯、活動・運営の基本アウトライン、そして今後の展望を財団理事長の川野幸夫氏と常務理事の藤野龍宏氏に伺った。

### 奨学財団設立の経緯

この財団設立のそもそものきっかけは、平成二十七年（二〇一五）の「浦和高校創立百二十周年記念事業」の一環として「奨学財団設立」を検討してはどうかと、当時の川野同窓会長から同窓会に対して提言があったことに始まります。それまでも生徒の海外留学や短期のセミナーへの参加はありましたが、あくまでもスポット的なもので、学校や同窓会に明確な計画・制度として生徒を送り出すシステムが整っていただけではありません。

実は、平成二十四年（二〇一二）頃に、当時の校長・関根郁夫先生から、生徒をア

メリカの大学のサマーセミナーに送り出したい、というお話とともに、同窓会として経済的な支援をお願いできないか、という打診が川野会長にあり、三人の生徒に対し、総額約百万円の支援をした経緯がありました。その後、こうした活動は単発で終わらせるのではなく、同窓会として継続して生徒を支援していくべきではないかという考えが川野会長から出されたことで、その実行組織としての財団の設立を同窓会役員の方々に諮ったところ強い賛意が得られました。更にこの話が伝わるや、同窓会員の中にこの新しい事業設立への気運が澎湃として起こり、同窓会総会での賛同の声に力を得て、この財団設立を「浦高創立百二十周年記念事業」として推し進めようということになったのです。

決定後、直ちに「奨学金制度」設立に向けての検討が始まり、奨学金の内容と規模、運営組織の在り方等々の検討が重ねられ、平成二十五年（二〇一三）同窓会理事会、次いで同窓会総会にて「奨学財団」の設立が承認されました。これを受けて同年六月「一般財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団」の設立を登記、更に同年十一月「公益財団法人」への移行を行い、平成二十六年（二〇一四）二月、奨学金事業の開始となりました。奨学金資金の寄付金募集もこの時から始まります。

「公益財団法人」の設立には、クリアしなければならない条件があり、関係省庁や地元行政機関との交渉が必要となります。こうした煩雑な作業に際しては、川野会長が、三十年ほど前に「川野小児医学奨学財団」という組織を作った際の経験

が大いにものを言い、このノウハウが、本財団の理念の在り方だけではなく、具体的な運営・維持・管理などの規則の制定から、事業の基となる資金の確保まで、多岐にわたる確かな組織作りの基となりました。

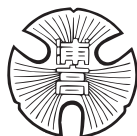
川野理事長は株式会社ヤオコー（スパーマーケット）の代表取締役会長で、「公益財団法人・川野小児医学奨学財団」設立時に個人所有の自社株を寄付しており、この配当により安定した活動が続いています。本奨学財団設立に際しても、川野理事長は、財団の基礎の部分で恒常的に活動資金が入るような形が望ましいとして、自社株を寄付されました。

財団が形を成すまでにはさまざまなことがありましたが、「公益財団法人」となったことで、財団の支援対象は浦高一校から埼玉県全域に広がることとなりました。これは一見すると浦高同窓会の守備範囲を超えることのように見えるかもしれませんが



令和最初の海外研修生派遣事業助成金授与式

令和元年6月15日、令和最初の海外研修生派遣事業助成金授与式。夏のサマーセミナーへの参加者が対象で、内訳はミシガン大学派遣2名、スタンフォード大学派遣6名、ウィットギフト校派遣3名、合計11名が対象。スタンフォード大学への派遣生6名のうち2名は浦和第一女子高等学校の生徒で、浦高以外の生徒に対する初めての授与となった。



●連絡先

公益財団法人 県立浦和高等学校同窓会奨学財団
〒 330-9330 さいたま市浦和区領家 5-3-3
浦和高等学校麗和会館内
TEL & FAX 048-886-0805
e-mail : urako-ob@u.email.ne.jp
URL : http://urako-tama.com/?page\_id=93



右：川野 幸夫 (かわの・ゆきお) 氏 (高 13 回)
(公財) 県立浦和高等学校同窓会奨学財団・理事長
(一社) 埼玉県立浦和高等学校同窓会・顧問 (第 8 代会長)
左：藤野 龍宏 (ふじの・たつひろ) 氏 (高 22 回)
(公財) 県立浦和高等学校同窓会奨学財団・常務理事
(一社) 埼玉県立浦和高等学校同窓会・理事 (事務局次長)

この四種類の奨学金は給付型で、いずれも

④ 進学奨学金
経済的理由で進学が困難な浦和高校卒業生に対して、進学資金の一部を給付(五十万円以内)

③ 修学奨学金
浦和高校の在學生で、経済的理由で勉学が困難な者に対して、修学資金の一部を交付。(二十万円以内)

② 留学奨学金
埼玉県内の高等学校の在學生または卒業した者で海外留学する者に対して留学費用の一部を給付。(年額九十万円)

① 海外研修生派遣奨学金
埼玉県内の高等学校の在學生で海外研修する者に対して研修費用の一部を交付。(三十万円以内)

▼財団の事業内容
財団が実施している奨学金の内容は、以下の四種類です。

奨学財団の事業内容と運営の概要

「奨学財団設立」が披露されました。
このような経過をたどって、平成二十七年(二〇一五)十月、県立浦和高等学校創立百二十周年記念式典において、川野同窓会長により「百二十周年記念事業」として「奨学財団設立」が披露されました。

返済義務はありません。また複数回の受給も妨げません。返済義務はありませんが将来その余裕が出来た段階で、できるだけ交付または給付額と同程度の寄付をする「奨学金の再造成努力」をお願いしています。これは、次に続く人たちに手渡す大切な「バトン」となります。

▼財団の収入

奨学財団の財源は、寄付金と株式の配当です。そのため、同窓生と同窓会関連団体・法人などへ毎年寄付協賛をお願いしています。寄付してくださった方のお名前や団体名は、卒業回、金額ともども「奨学金寄付一覧表」を作成し、毎年四月の同窓会会報の送付時に、専用振り込み用紙とともに同封されます。この一覧表は累計寄付金額の多い順に並べ、直近二年間に寄付した者の氏名を太字で強調しています。

平成二十五年度から令和三年度までの累計寄付金額は一億五百五十三万円余となります。低金利の時代にあつては現金の基本財産はほとんど果実を生みませんが、幸い当財団では、同窓生からの寄付金の他に川野会長が寄付された株式の配当が、安定した活動を大きく支えていると言えるでしょう。平成二十六年から毎年受けている株式の累計は三十六万株になります。

▼給付の実績

財団設立以来の給付の対象者の内訳と給付総額は下表の通りです。令和元年度以降の給付実績の低下は、新型コロナウイルスの蔓延による影響で、世界的に海外渡航および留学先での対面授業等に困難を来していたためです。

令和4年3月31日までの奨学金給付実績

Table with 7 columns: Year, Overseas Study, Study Abroad, Study, Advancement, Total, and Amount Paid. Rows include Heisei 25-30, Reiwa 1-3, and a Total row.

\*オンライン

海外研修生・留学生の選定

さて、奨学金給付対象者の選定については、応募者には高校からの推薦状がありますが、面接は実施しません。面接は、日本語と英語で各々一回づつ行います。実際に面接を行うのは浦高の教諭です。その面接の評価を受けて選考委員会(浦高の教諭・PTA・浦高後援会・同窓会より成る)が決定します。会議は年に三回開催されています。



### 浦和高等学校・麗和会館▶

同窓会が創立90周年事業で建設し県に寄付した。1階は生徒食堂で、2階には同窓会事務室、会議室、資料展示室がある。



### 尚文昌武（しょうぶんしょうぶ）

「文をたつとび、武をさかんにする」という浦高の教育精神を象徴する言葉。浦高OBの宇宙飛行士・若田光一氏（写真右側）は、平成13年に宇宙へ赴いた際、浦高カラーの地に金色で書かれた「尚文昌武」の旗を浦高より持参、国際宇宙ステーションに高らかに掲げた。同旗は地球帰還後に浦高に返還され、現在は校内に展示されている。

奨学生は、九年間の合計二百三人中、イギリス、アメリカ、カナダなど英語圏の国が百八十四人で全体の九〇%を占めます。次いでデンマークの十六人です。イギリスの場合は、全てロンドン南部の浦高の姉妹校「ウィットギフト校」でのサマーセミナー・春の短期研修となります。

### 奨学生の研修先・留学先

面接で重要なのは、当然のことながら志望動機です。何をしたいのか、何を学びそれをどう生かしたいのか、などのことです。ですので当落のボーダーラインにいる人を入れるか外すか、これが悩ましい。またもし優れた人材、高い可能性を持った人材が多数応募してきた場合はどうするか、という問題もあります。

解はいくつもあるでしょうが、財団の目的・理念に鑑みれば、選定の際には、成績の他に応募者の可能性を見極める目利きの力が必要になります。言うまでもなく個々の事例に対してはできるだけ柔軟な対応をすべきですし、そうするよう努めています。ですから選定に当たっては、予算の問題はあるにしても、定員数は決めておりません。また年齢制限というものも特ではありません。三十代四十代でも大丈夫です。現に東北大学卒の家庭持ちの浦高OBに対し、コロナビア大学医学部への留学を助成したこともあります。また支援対象は理系だけではなくありません。実際、当財団では音大出身者の海外留学の支援もしています。



▲平成7年（1995年）創立100周年記念で姉妹校提携の英国ウィットギフト校

情熱は人を動かします。そしてそれをみんなが応援する、そういう素地は既に出来ています。その上で財団が受給者に理解して欲しいのは「みんなが応援している、みんなの応援を受けている」という事実です。ですから応募者のみなさんには自分の熱意と意欲を、具体的にしっかりとアピールしてほしいですね。

### ▼受給者の報告

海外留学生数は研修者の四分の一程度ですが、渡航先はやはり英語圏のイギリスとアメリカが多く、ドイツがそれに続きます。日本では英語を第一外国語としている学校がほとんどですから、これから先もこうした傾向・分布になるだろうと思われれます。

留學生には毎年報告書を提出してもらいます。またサマーセミナーなどの研修に行った生徒たちは、全校集会で報告をします。そうした中で特に印象深かった報告がありました。それは、同窓会創立百二十年記念式典のことで、支援を受けてミシガン大学のサマーセミナーに参加した三年生の生徒が、報告のスピーチをほとんど英語で行ったことです。海外で経験した発見やさまざまな刺激など、内容も若者らしくフレッシュで充実したものでした。この時は本当に、奨学金事業をやっていたよかつ

たと思いましたね。漫然と海外に行くのではなく、文化の違いをはじめとするさまざまな経験を通して、個人の知性を涵養し、視野の広い役に立つ人材へと自分を育てていくきっかけにしてほしい、という我々の願いへの嬉しい「解答」だったと思います。

### 同窓会奨学財団のひろがり 連絡協議会の発足

浦高同窓会の奨学財団と同様の活動を行っている高校同窓会は全国にいくつもあります。一校の活動では、年に五十〜六十人くらいしか応援できませんが、仮に百校の同窓会が同様の活動を展開すれば、年間に五千人の意欲ある人材を応援することができます。そこで、この活動を広めていくことの一步として、同様の活動を既に行っている財団と連絡を取り、十一校の参加による「第一回全国高等学校同窓会奨学財団連絡協議会」を令和元年（二〇一九年）十二月十日にさいたま市で開催しました。目的は、互いに切磋琢磨し、知恵を出し合い、お互いの情報交換ができる場を作ることです。また今後全国で新たに奨学財団を立ち上げようとする同窓会への、情報提供を含めたサポートができればと考えています。この連絡協議会の事務局は、浦高同窓会事務局内に置かれ、藤野常務理事が窓口となっております。





## ●連絡先

福島県立双葉高等学校同窓会・事務局  
〒970-8026  
福島県いわき市平字作町3-4-10 リンクサイト2F  
TEL 090-4045-2174 (秋本浩志 高46回卒)

## 私と同窓会

福島県立双葉高等学校同窓会  
会長・松本貞男

さらに新たに道あらん  
歩み固かれ目は遠く

\*双葉高等学校校歌より



松本氏は福島県双葉郡葛尾村<sup>かつしお</sup>の生まれ。福島県立双葉高等学校で学び、大学を卒業後教職に就き、母校の教員として9年の勤務を含め、県内各地の高校で教鞭を執る。平成20年3月、母校の校長を最後に定年退職。退職までの人生四分の一を双葉高等学校で過ごした。平成23年、浪江町の自宅で東日本大震災とそれに伴う原発事故に遭遇。現在は双葉高等学校同窓会の会長。(高18回生)

福島県立双葉高等学校は、大正十二年(一九二二)に旧制の県立双葉中学校として開校し、令和四年(二〇二二)に創立百周年を迎えます。福島県の東、浜通りと呼ばれる太平洋に面した温暖な気候の地の中ほどにあり、質実剛健・終始一貫の校訓のもと、これまで一万七千六百余名の卒業生を送り出して参りました。双葉高校は双葉郡の中心にあつて「おらが町のおらが母校」の印象が強く、しかも文武両道の校風で、これまで甲子園の全国高校野球選手権大会に三度出場し、二回目、三回目では勝利の校歌を唄っています。

平成二十三年(二〇一一)三月十一日に発生した東日本大震災では、東日本の太平洋岸全域が地震と津波によつて壊滅的な打撃を受け、さらにこれに伴う福島第一原子力発電所の放射能事故によつて双葉町を含む広大な地域に避難指示が出され、膨大な数の住民が、福島県内のみならず、日本中に分散・仮寓することとなったのはご存知の通りです。

この未曾有の混乱の中で、県教委により双葉高校は県内の福島・郡山・会津・いわきの四市に「サテライト校」を開設して授業を継続し、さらに平成二十四年からは「いわき明星大学」内にサテライト校を設置、学校としての機能と生徒の集約を図り、一体感を持った教育を行つて参りました。しかし住民のふるさと帰還のロードマップが見えないまま、生徒数の大幅な減少は続き、平成二十七年からの生徒募集は停止ということになりました。

双葉高校の最後の三年間の卒業生は、平成二十七年十六名、二十八年十五名、

二十九年度十一名でした。

この間、平成二十五年十月には「創立九十周年記念式典」を挙行、また平成二十九年十一月には「休校記念式典」を開催し「復活・双高 想いをつなぐ双葉の伝統心」のふるさと我が母校」というスローガンのもと、母校の存続と再会に向けて力強く前進することを誓い、涙の校歌斉唱をしました。

そうしたなか、県は平成二十七年四月八日、双葉郡の最南端の広野町に「福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校」を開校しました。男女共学で全日制の併設型中高一貫校です。双葉郡の各町村の教育長会は、地域の復興の基は教育にあるとし、サテライト校による教育の限界を解消すべく新しい形での公立の教育施設を国の支援を受けて設けることにしたのです。これを受けて、我が双葉高校も募集を停止し、やがて在校生が全て卒業した平成二十九年三月三十一日以降の無期限休校へと至りました。

こうした現実を冷静に見れば、我々が「休校記念式典」で誓った「母校の存続」は夢でしかないのかもしれない。もちろん教育の継続の重要性は自明のことですから、「県立ふたば未来学園中学校・高等学校」の誕生は、就学人口が大幅に減少した状況ではやむを得ないことだと理解はしています。人々が故郷に戻り、双葉高校が復活する日が来る道のりははるか遠いですが、少なくとも眼前にある大きな節目の「双葉高校創立百周年」の記念事業は、令和五年に同窓の仲間と集い祝い、一人ひとりの胸に刻みたいと予定しています。

この「百周年記念事業」の内容については、「百周年記念誌の発行」「顕彰・記念品の製作」「祝賀会」「復興再開に関わる今後の同窓会活動資金等の基金の設置」などを考えています。更にこれと並行して双高「百年の樹」賛歌の制作が、同窓の詩人と作曲家の手で行われています。この賛歌が、故郷と母校への想いととも、歌い継がれていくことを願っています。百周年の記念式典までおよそ一年半、本来この時期は実行委員会の会合を定期的に行い、より具体的な議論を重ねていなくてはなりません。しかし現在のこのコロナ禍がそれを阻んでいきます。時間との戦いですが何としても完遂しなくてはと想いを強くしています。

母校再興のために我々は何をすべきか、答はなかなか難しい。そして何より原発の廃炉他の問題が終わらないうちは何も進まないという現実があります。こうした外部条件に加えて、休校以降は新たな同窓会への新入会員はありません。また、自分自身も含め同窓生の高齢化と他地区への転居という問題もあり、活動の範囲を狭めています。問題は山積していますが、この双葉の地でこれまでにない経験をした私たち双葉高校同窓会は、当面の目標である「母校の百周年記念事業」をやり遂げ、さらにこれを新たな故郷を創造していく契機と捉えて、これからも活動を続けて参る所存です。■

令和四年一月二十日、全住民の避難が続いていた双葉町で、帰還のための「準備宿泊」が始まった。震災から十一年目にして踏み出した、双葉町の復興の第一歩である。

# 母校から繋いだ襷と北高魂!



## 静岡県立浜松北高等学校同窓会 関東支部総会

アテネから浜松、東京へ。私たちの聖火リレー  
幹事たちが夢中になった、オンライン総会への挑戦

●静岡県立浜松北高等学校（以下・浜松北高）は、二〇二四年に創立二三〇周年を迎える県下有数の名門公立高校であり、教育目標に「自主独立」を掲げる進学校である。この浜松北高の関東支部同窓会が、コロナ禍で人が集まることが困難となった二〇二〇年十一月、史上初の「オンライン同窓会」に臨んだ。そしてその目玉企画として、浜松市の母校から東京までの約二五〇kmを歴代の同窓生が走ってつなぐ「リレーマラソン」を行い、その模様の映像配信にも挑戦したという。いったいどのように開催されたのか、当年の幹事メンバーの中から三氏に伺った。

### 初めてのオンライン同窓会へ

浜松北高の同窓会は、地元浜松で開催される「同窓会総会」と、関東や関西など各地で開催される「支部総会」がある。毎年慣例として、支部総会の中で最大規模の関東支部総会を六月、浜松での同窓会総会を七月に開催し、幹事はその年卒業して二九年目の学年が務めることになっている。

同窓会の準備は本番の数年前から始められる。卒業後、疎遠になっていった仲間たちが再び集まって準備していくのだが、二〇二〇年の関東支部総会に向けてはまずその年の七月に東京五輪が開催されることになった。幹事学年の「新四四回生（平成四年卒）」で幹事長を務める黒宮氏が東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に所属していたうえ、五輪関係の仕事で多忙が予想されるメンバーもあり、万全な同窓会の準備に支障をきたす恐れがあったからだ。

幹事で話し合った末、開催時期の変更を提案することとした。関東支部総会会長故・有馬朗人元東京大学総長や先輩方に諮ったところ快く承諾され、異例の十一月開催が決まった。

二〇二〇年、春先からコロナウイルスが蔓延し四月に緊急事態宣言が発令された。見通しがつかない情勢を受け、三か月後に迫った浜松の同窓会総会は中止となった。一方で、十一月に変更していた関東支部総会の開催判断は、関東の幹事に一任された。当時まだ不慣れだったオンライン会議で幹事たちが毎週のように集まり、関東支部総会の実施可否を協議した。「やらない判断は簡単だが、どうすればできるかを考えてみないか」。話し合いの結果、オンラインでの開催にチャレンジすることとなった。

### 「二〇二〇年」ならではの企画を

実施された「リレーマラソン」企画には熱い思いがあったようだ。発案した西尾氏はこう語る。

縁あって五輪イヤーの二〇二〇年に幹事がまわってきたのだから、その年ならではの特別な企画をしたいと数年前から思っていました。同窓会はどうしても学年ごとで固まって「同級会」になりがちなので、学年をまたいで一つになるような企画ができないかと考えていた時、ふと、全ての卒業生からランナーを募り、様々な学年の方が襷をつないでいく「駅伝」の形が浮かびました。そしてそこに五輪の「聖火リレー」のイメージが重なって「これだ」と思いました。妄想はさらに膨らみます。五輪には、開

催国から開催国へ「旗」をつなぐ儀式がありますが、この企画でも北高の「校旗」を運んでいけないかと考えました。さらに、二〇一九年九月にプライベートでギリシャのウルトラマラソンを走ることが決まっていたので、聖火リレーの起点でもある聖地へ「校旗」を持参し、リレーマラソンの起点になったらいいな。それで、企画が実行できるかまだ決まっていなくてもかわらず、校旗をこっそり自作して現地に持参し、パルテノン神殿の麓で掲げました。

帰国後、企画検討会議の中で、この案を含む八つの案を提案すると、メンバーが最も好感をもってくれたのがこの企画でした。「こんなこと、本当にできるのなら」と条件つきでしたが（笑）。

その後、実施へと準備を進める最中にコロナが拡がり、外出自粛に押されて一時は企画断念も考えましたが、協議の末、準備を続けることにしました。中止された浜松総会の幹事メンバーたちの思いを乗せ、またコロナ禍で苦しんでいる同窓生にもきつと元氣になつてもらえるだろうと。

### 複雑を極めた運営計画

企画には、走行ルートや区間設定、ランナーの募集、当日の運営など複雑で緻密な計画が必要だった。苦難の道のりを、設計した鈴木氏が語る。

ランナーの募集は、東京五輪の開幕にあわせて祝日となった七月二四日（スポーツの日）から同窓会ホームページやフェイスブックで行いました。告知早々応募が相次ぎ、最終的に二九歳から六四歳まで、二二学年、



▲新44回幹事メンバーと、リレーマラソンで卒業生が運んだ檣と校旗



- 左：鈴木 克洋（すずき・かつひろ）氏（新44回）  
関東支部総会 企画担当・伴走
- 中：黒宮 教之（くろみや・たかゆき）氏（新44回）  
関東支部総会 幹事長
- 右：西尾 茂（にしお・しげる）氏（新44回）  
関東支部総会 企画担当・プロデューサー

六五名の卒業生から手が挙がりました。

日程は、九月十二日に母校正門をスタートし、その後約二五〇kmを飛び石で五日間かけて進み、総会当日の十一月十四日に東京の会場にゴールする計画です。コースはグーグルマップで夜な夜な地道に設計し、不安な箇所は幹事で現場を見に行つて確認しました。そして、全体を十のブロックに分割し、さらに各ブロックを、檣の受け渡しをする中継点を想定しながら二〜十km程度に分け、実際の走行区間を設定していきました。ランナーには走りたいブロックを申告していただいていたので、希望に沿って当てはめていきました。

本番の運営では、安全を確保するため、ほぼ全行程を私が自転車で行きました。また、スタッフとして浜松と東京の幹事たちが率先して協力してくれ、感染症や熱中症への対策をとりながら、大きなトラブルなく進められました。唯一の想定外は、コース途中で見られるはずの富士山の絶景が、土砂降りで全く見られなかったことです（笑）。

### 全ランナー収録の動画を配信

オンライン総会はどのように行われ、リレーマラソンをどう伝えたのか。黒宮幹事長がこう説明する。

当初はZOOMなどのオンライン会議ツールを使用する方法を考えましたが、魅力的な形になる想像ができず、会の肝になりそうな動画もスムーズに視聴できないことがわかりました。悩んでいた時、映像配信系のお仕事をされている先輩が手を差し

のべてくださいました。その先輩から、テレビ番組のように「配信」する方式により動画がスムーズに流れるというノウハウを教えていただき、本番は事前収録した動画とライブ映像を組み合わせて配信することにしました。

総会当日、メイン企画としてリレーマラソンの全行程をまとめた映像を配信しました。手前味噌ながらなかなか良い出来栄で、ランナーが笑顔で檣をつないでいく様子を見ていると、私もちよつとウルツとしてしまいました。

「当初は長くて十分以内と思っていましたが、映像にうつる同窓生たちの表情が眩しすぎて、これは全員登場させるべきと思いました。気づけば十五分の大作になりました（笑）」（西尾氏）

私は六六人目としてアンカーを務めさせていただきました。映像の後、会場のゴールテープをきる様子がライブ配信されると、設けていた書き込みチャットに多数の拍手と声が寄せられ、感動が届いていることを実感しました。

### 幹事には生涯忘れられない体験に

オンライン開催へ舵をきり、見えないプレッシャーと戦いながら、幹事メンバーをまとめた黒宮幹事長はこう総括する。

申込人数は五〇七名、ライブでの最大視聴者数は三二五名、アーカイブ配信は延べ一四〇〇回以上再生され、想像を遥かに超える視聴をいただきました。関東はもちろん浜松や日本各地、そして海外からも参加いただけたのはオンラインならではですね。

終了後の反響は大きく、「北高がますます好きになって涙が出た」「最初は『掃除でもしながら見るか』だったのが、最後はスマホを握りしめて号泣していました」「小学生の子供が、引越してでも北高に行きたいと言ってます」など、うれしい感想をいただきました。

幹事たちは一致団結して手探りで必死に準備をしてきましたが、前例のないことに挑戦する高揚感、新しい技術を活用してみようという好奇心が、各々の北高魂に火をつけたのだと思います。人それぞれ得意な分野があつて、それをみんなで持ち寄り、補い合つてオンライン総会を開催できたことは、幹事メンバーだけでなく幹事学年全員にとつて本当に幸せなことで、生涯忘れられない体験になったと思います。

実はやり残していることがまだ一つだけあります。コロナ禍で「リアルな打ち上げ」ができていないのです。幹事たちはその日を心待ちにしています。相当な盛り上がりになること、間違いないですね（笑）。



# カレーが結ぶ 学食支援の輪

## 大阪府立八尾高等学校同窓会

学食閉鎖の危機を乗り越え、  
”オール八尾高”で挑んだ壮大なプロジェクト

●大阪府立八尾高等学校では、平成三十年（二〇一八）に発生した「学食の一時封鎖」を契機に生まれた「新しい形の学食」の安定的な維持を目的に、同窓会、PTA、先生、生徒が一丸となって支援活動を展開している。

現在ではこれに地域が加わり、支援プロジェクトは更なる発展を見せ始めているという。一体どのような活動なのか、このプロジェクト誕生の経緯と現状、そしてこれからの展望を、プロジェクトの中心となって活躍されている同窓会長・藤田博久氏と副会長・高田和幸氏に伺った。

### 危機は突然やってくる

#### ——予期せぬ学食の閉鎖

八尾高校では二〇一八年、経営事業者の倒産により、突如、学食閉鎖という事態が発生しました。学食は学校生活の楽しみのひとつであり、生徒たちにとって無くてはならない場所ですから早急に新たな事業者を選定し再開しなくてはなりません。この事態に関係者はさまざまな情報やつてを頼って引き受けてくれる事業者を探し続け、濱本さんという方に引き当たったのです。

濱本さんは、当時二校の府立高校で学食を運営している実績があり、またその熱心な学食運営の姿勢と献立の評判を耳にしており、八尾高校の窮状を訴えて協力をお願いしたところ、濱本さんは学食の営業再開に向けての「事業者入札」への参加を快諾いただきました。幸いにも落札されて、関係者一同まずは胸を撫で下ろした、ということがありました。

### 学食再開への感謝から生まれた 学食支援プロジェクト

こうして三ヶ月の空白を経て学食は再開されました。濱本さんは学食運営に際し、利用者である生徒目線でメニューをそろえ、しかもその全てに大中小の「量の区別」を導入、個人個人があらかじめ自分に必要な量を選ぶことで食べ残しを出さないようにするなどの食物ロスを工夫し、限られた予算内と食べ盛りの生徒たちを満足させることの間で常に努力をされていきました。特に「牛すじカレー」の評判は高く、濱本さんの仕事熱心な姿勢とともに、良い事業者に来てもらえたと喜んでおりましたが、同時に、学食経営そのものが決して楽なものではないことも我々は十分に承知しておりました。

二〇一九年九月、同窓会長に就任した際、私は当時の校長先生から学食をめぐる一連の事を聞き、いわば学食を救ってくれた濱本さんに感謝の意を伝え、安定した学食運営がかなうよう、同年末に同窓会を主体とする「学食支援のプロジェクトチーム」を発足させました。そして多くのアイデアの中から生徒に評判の高い「オリジナルカレー」の商品化を決定、まずは同窓生に支援を呼びかけつつ、同時にクラウドファンディングでの展開の実施も決めました。

購入型クラウドファンディングを活用しようと考えたのは、これがプロジェクトの活動を支える原資の調達であると同時に、学食の閉鎖という現実と、その復活・再生への、同窓会、学校、PTA、さらに地元の方々の想いが、世間でどれほど

認知され、賛同が得られるかを確かめたかったからでもあります。

ところが二〇一九年末、世界中に新型コロナウイルスの蔓延が報じられ、その影響で二〇二〇年三月、学校は休校となり、学食も休業を余儀なくされてしまいました。しかしこの困難な状況下にあっても、プロジェクトに対するチームの気持ちは微動だにせず、当初の「濱本さんに感謝を伝える」というコンセプトに「コロナ禍で困っている学食を応援する」という新たな目的を加えて「学食ありがとうプロジェクト」としてより充実、より広がりをもった活動として動き出したのです。

### 学食ありがとうプロジェクトの 詳細とオール八尾高の広がり

プロジェクトの名称は「All 八尾高 One Team 学食ありがとう project」です。具体的な内容は「八尾高校ブランドの『レトルトカレー』の開発・販売」です。学食支援ツールをカレーとしたのは、万人受けするメニューであること、保存のきくレトルト食品として定番であること、そしてなにより濱本さんの「牛すじカレー」の学食での評判が非常に高かったからです。

ただ「牛すじカレー」は他校の学食でも提供していますから、濱本さんは新たに八尾高校オリジナルのレシピを考案、それが「トマト×ポークスライス」です。学食の目の前にある八尾高校のシンボル「きつね山」に因んで、きつね色をイメージしています。

また、これと並行して、食物研究部の生徒たちもプロジェクトに加わり、レシピ開





●連絡先 大阪府立八尾高等学校同窓会事務局  
〒581-0073 大阪府八尾市高町 1-74  
事務局 TEL/072-993-6379 FAX/072-993-6378  
E-MAIL/yaoko@athena.ocn.ne.jp  
同窓会 URL : <https://yaoko-yuukari.com>



▲プロジェクトのロゴマーク



左：藤田 博久（ふじた・ひろひさ）氏（高23期）  
同窓会会長  
右：高田 和幸（たかだ・かずゆき）氏（高23期）  
同窓会副会長（プロジェクト担当）

発に挑戦、部員それぞれが幾度も試作を繰り返して、最終的に、地元八尾市内の田邊農園で収穫される小松菜を使った「小松菜×チキングリーン」を開発しました。  
パッケージは八尾高校の美術部の生徒がデザインし、印刷はOBの経営する印刷会社が行いました。レトルトカレーの製造委託先は同窓会ネットワークを活用して大阪府下の企業を探ることができました。そして原材料の安定的供給が期待できる地元の農園や行政などとの各種の交渉、完成品の発送その他の作業は、プロジェクト全体の中核を担う同窓会運営委員会が担当。このようにして「オール八尾高」の体勢は整っていきました。

### 販売は多角的なアピールから あの手この手の情報発信作戦

商品の開発とともに重要なのは販売方法です。販売にはその商品とコンセプトを広くアピールする必要があります。そこで同窓会が考えたのは次のような方法でした。  
①クラウドファンディング

購入型クラウドファンディングで、コンセプトを理解していただいた上で、商品購入十寄付を仰ぐ形態。（実施済み）

#### ②特別協賛金

同窓会機関誌等で同窓会員に案内、活動に賛同頂いた上で特別協賛金（寄付金）をお願いし、その返礼品とする形態。

#### ③ふるさと納税の返礼品

八尾市が実施している「ふるさと納税の返礼品」に選定される形態。

#### ④その他

食堂及び文化祭などのイベント会場、また八尾市観光案内所、等での販売。

二〇二〇年七月、八尾高校食物研究部の生徒と学食店長のレシビ「八尾きつね山カレー」というタイトルでクラウドファンディングを実施しました。期間二か月で目標金額は六十万円でしたが、開始からわずか十四時間で目標額を達成、最終的に百八十五万円が集まり、期限前に終了しました。更にコメント欄にはOB OGを始め地元の方々からたくさんの応援メッセージが寄せられ、スタッフ一同、大いに意を強くしたものです。

この活動は、地元関西で新聞・メディアを通じて大きく取り上げられ、同年十月からは、八尾市の「ふるさと納税」の返礼品として採用されるなど更に発展していきました。二〇二一年には、初年度の半数に限定した四千食で第二弾の活動を行い、現在は、八尾市観光案内所で八尾市の「ご当地カレー」として販売されており、誰でも購入することが可能です。

また、同窓会は営利団体ではないため、この活動で得た必要経費差引後の同窓会の剰余金は、同窓会が以前から設立している「ゆうかり基金」に繰り入れ、母校の教育環境整備等の支援に役立てることにしました。

### プロジェクトの未来に向けて

#### 「継続は力なり」を実践する

学食を救ってくれた濱本さんに感謝を伝えたいという想いからスタートしたこのプロジェクトを通じて、同窓生だけでなく生徒、保護者、学校教職員、地元の方々との交流が生まれ、まさに「ALL八尾高One Team」の結束力、絆の強さを再確認できたことを本当に嬉しく思います。また、同



▲濱本さんと食物研究部生徒のみなさん（きつね山の前で）



窓生との接触機会が増したことで、同窓会がさらに活性化したようにも感じました。

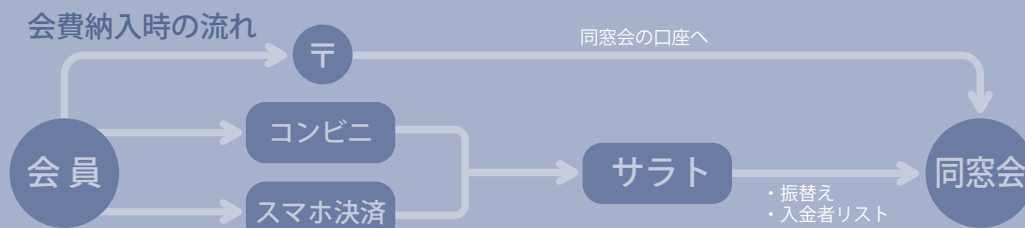
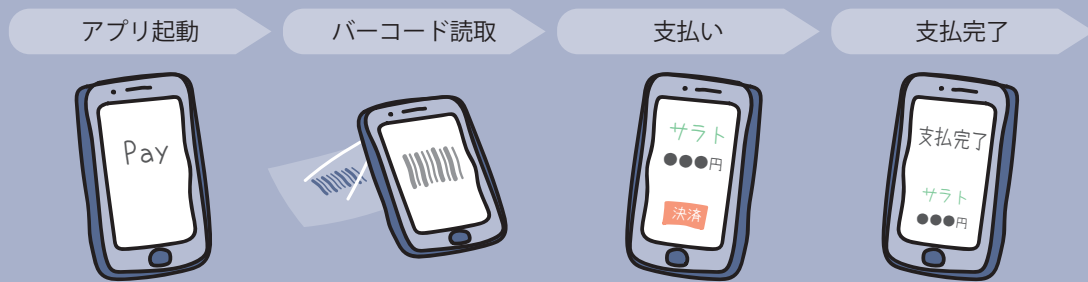
「学食ありがとうプロジェクト」は当初の目的を達成することができ、今後「八尾きつね山カレー」が八尾高学食発の「ご当地カレー」として全国デビューする夢を追い続けます。また、これからも同窓会ネットワークを活用し、同窓会が主体となつて「オール八尾高」でプロジェクトを組成、母校支援・学食支援と共に地域貢献にも挑戦していききたいと思えます。■



会費等のお支払いがスマートフォンからできます。  
 郵便局よりも店舗数が多く、営業時間が長いコンビニ振込用紙を導入いただくことで、各校の入金件数は大幅に増加しました。今後はスマートフォンでの支払いが可能となり、より若い世代や外出の機会が少ない方からのご協力も見込むことができます。

### 決済手順について

- ①スマートフォン等にスマートフォン決済アプリをインストールし、必要事項を登録します。(アプリで納付に必要な金額をチャージします。)
- ②アプリの請求書払いを選択し、振込用紙に印字されたバーコードを読み込みます。
- ③払込金額を確認し、支払手続きを行います。
- ④支払手続きが完了すると、支払完了画面が表示されます。



ご利用いただけるスマートフォン決済アプリ



※利用方法の詳細については、各アプリ事業者のHP等をご確認ください。



●連絡先 濟々覺同窓会

〒 860-0862 熊本市中央区黒髪 2-21-50  
一般財団法人多士会館／濟々覺同窓会事務局  
TEL : 096-345-3002 / FAX : 096-346-3225  
E-mail : tashi@seiseiko-dosokai.gr.jp  
URL : http://seiseiko-dosokai.gr.jp/  
Facebook : https://www.facebook.com/seiseiko.dosokai/

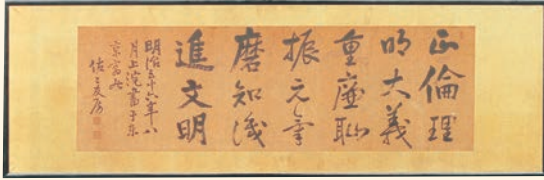


# わが学び舎

## 熊本県立濟々覺高等学校

### 濟々覺同窓会

三綱領の精神と  
徳育、体育、知育の三育併進



三綱領 佐々友房・書

倫理を正し  
大義を明らかにす  
廉恥を重んじ  
元気を振るふ  
知識を磨き  
文明を進む

### 沿革

明治十二年（一八七九）十二月 佐々友房・高橋長秋らにより『同心学舎』を開校。その後『同心学校』と改称。  
明治十五年（一八八二）二月十一日 飯田熊太、佐々友房ら、三綱領を制定し、『濟々覺』として開校。  
明治十六年（一八八三）五月 宮内省より恩賜金五百円を下賜される。  
明治二十一年（一八八八）春 付属の女子学校を開校。（現在の尚綱育高校）  
明治三十三年（一九〇〇）四月 生徒増のため生徒・教職員を二に分け、第一濟々覺は黒髪町の新覺舎に移り、井芹経平が覺長となり、翌年八月、熊本県立中学濟々覺と改称。第二濟々覺は、野田寛（私立濟々



上：佐々友房先生  
下：井芹経平先生

### 三綱領・解説

三綱領とは、明治十五年開校の濟々覺建学の精神を表す三つの要点。濟々覺ではこれを基に三つの柱、徳・体・知の三育併進の教育を行っている。

- 一、徳育の柱  
人のふむべき道、正しい人間関係のもと、世界の平和と人類の幸福に貢献する。
- 二、体育の柱  
心清く恥を知る事。真の勇氣（元氣）は廉恥を重んずることによって生まれる。
- 三、知育の柱  
この複雑化した国際社会の中で、蓄積された知識を活用して、社会の発展に向けて努力する。

### 表紙写真・解説

濟々覺高等学校新管理棟  
平成二十二年（二〇一〇）七月竣工。鉄筋コンクリート四階建。新管理棟は旧管理棟「黄壁城」をモチーフにデザインされた。



黄壁城（旧管理棟）1906 - 1959

### ●校名の由来

濟々覺高等学校の校名は、詩経・大雅・文王の「濟々多士 文王以寧（濟濟たる多士、文王以て寧んず）」に由来し「優れた人材が多く集まっている」ことをいう。因みに濟々覺高等学校の同窓会館は「多士会館」と呼ばれている。

### ●校舎黄線の由来

黄色はむかし中国で高貴の色とされた。それと「覺」の字にあやかって採用されたと思われる。かつて制帽に黄線が入り、黄色は濟々覺のスクールカラーとして定着していった。

濟々覺野球部は第九十四回全国高校野球選手権（創立百三十周年の年）に出場し、六千人収容のアルプスタンドとそれ以上を黄色で埋めた応援が話題を呼んだ。全国放送のNHKアナウンサーが球場を「まるでひまわり畑」と例える程であった。

覺卒）が初代校長となり、十月、熊本中学校と改称。（現在の熊本高校）  
明治三十九年（一九〇六）六月 覺舎落成。これが『黄壁城』と呼ばれ、昭和三十四年まで濟々覺のシンボルとされた。  
明治四十五年（一九二二） 覺制定。「天地万象皆我が師 進まん理想の目標に」。  
大正二年（一九一三）三月二十日 孫文・宮崎滔天ら来校。  
昭和六年（一九三一）十一月十六日 昭明天皇行幸。  
昭和七年（一九三二）創立五十周年記念式典挙行。  
昭和十八年（一九四三）三月三十日 定員百五十名の夜間部併設。  
昭和二十三年（一九四八）四月一日 熊本県立濟々覺高等学校と改称。  
昭和三十三年（一九五八）四月 第三十回全国選抜高校野球大会で優勝。  
昭和五十七年（一九八二）三月一日 定時制廃止（同窓会名を覺友会とする）。  
十一月十三日 創立百周年記念式典挙行。  
平成二十六年（二〇一四）四月から五年間 スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）指定。  
令和元年（二〇一九）四月 S G H 事業で培った本覺での取り組みを元に「濟々覺未来探究」がスタート。  
令和四年（二〇二二）二月十七日 濟々覺創立百四十周年記念事業の一つとして、桜二十本の植樹実施。  
十一月十一日 創立百四十周年記念式典挙行予定。

# ごあいさつ

雑感：会報誌にもコロナの影響が



株式会社サラト・代表取締役  
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

●詳しくは、弊社ホームページから  
URL : <https://www.salat.co.jp/>



小誌、前号の発行から一年が経ちました。新型コロナウイルス感染症流行の第六波が落ち着いたとはいえ、未だ同窓会の活動を制限せざるを得ない状況は続いており、一日も早い収束を願うばかりです。

さて、このコロナ禍の中、多くの同窓会から会報誌の記事に関するご相談をいただきました。総会や支部活動、同期会などが開催できない状況で、どんな記事を掲載すれば良いか悩まれた同窓会が多かったようです。そこで、年間六百校以上の会報誌の作成や発送を行っている弊社にて、各同窓会の記事内容にどのような変化があったか分析したところ、コロナ前には無かったいくつかの特徴が見られました。

## 1 オンラインツールを活用した

### 事業の案内や実施報告。

オンラインツールの活用による各種事業の開催案内や実施後の報告などさらにはそこで得られた新たな気づきや課題なども併せて誌面に掲載。

## 2 会則の改定

各種事業の承認などについて、対面による総会や役員会で決議することを明文化していた会則を、対面での開催が困難な状況にある場合には、書面による決議を可能とするよう改定し、誌面で会員に報告。これは、新型コロナウイルスのような感染症対策だけでなく、将来起こるかもしれない自然災害発生時などへの対策とも考えられます。

## 3 会費徴収方法の変更

年会費や寄付金の徴収について、従来の郵便局に加えてCVS（コンビニ

ニエンスストア）での納付やクレジツトカードによる決済、さらには〇〇PAYといったスマホ決済など社会インフラの変化に対応し、会員の利便性向上を目的とした多様な徴収方法の導入とそれぞれお知らせ。

## 4 ふるさと納税制度を活用した

### 母校支援のお願い

自治体の協力のもと「ふるさと納税制度」を活用し母校支援を呼びかける記事の掲載。

## 5 その他

社会で活躍する同窓生やお店の紹介、同窓生からの回顧録、恩師からの寄稿なども掲載人数を増やすことで誌面の充実を図る傾向もありました。

## ●制服オリジナルリカちゃんに新しい仲間が増えました

（お問合せは弊社まで。）



© TOMY

左より：兵庫県・松蔭中学校・高等学校／山梨県・都留高等学校  
群馬県・太田女子高等学校／岐阜県・長良高等学校

## 同窓会のチカラ

2022年号／Vol. 14  
(2022年6月発行)

編集・発行 株式会社サラト  
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172  
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746  
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7  
シモジンビル5F  
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389  
E-mail [eigy@salat.co.jp](mailto:eigy@salat.co.jp)  
URL : <https://www.salat.co.jp>

**SALAT**  
Salat Corporation

サラトは昨年（令和三年）、全国百六十五校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様にご心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

このような困難な状況にあっても、近隣他校との連携を図りながら情報交換を積極的に行い、同窓会の活動継続に尽力される同窓会事務局や役員・先生方に接し、あらためて同窓会や母校の発展を願うお気持ちを伝えることが出来ました。

一日も早く対面での再会を強く願い、母校の永続的發展に貢献されている同窓会のために、これからもわたしたちサラトは全力でサポートしてまいります。